

塩化カリを増施し、土壌中交換性カリ含量が上昇しても 玄米中カリウム含量と食味値は変化しない（浪江町）

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証

研究課題名 吸収抑制対策のカリ施肥による玄米中カリウム含量への影響（浪江町）

担当者 三本菅猛、齋藤隆

I 新技術の解説

1 要旨

本県では玄米中への放射性セシウム吸収を抑制するため塩化カリ等が増施されているが、これに伴い玄米中のカリウム含量が高まることが懸念される。そこで、塩化カリによる吸収抑制対策を実施した水田において、土壌中交換性カリ含量と玄米中カリウム含量、食味値を測定したところ、土壌中交換性カリ含量が上昇しても玄米中カリウム含量と食味値に影響がみられないことが明らかになった。

- (1) 浪江町の水田 13 か所から土壌と玄米を採取し、土壌および玄米中放射性セシウム濃度を測定するとともに、土壌中交換性カリ含量、玄米中カリウム含量を測定した。
- (2) 玄米中カリウム含量は 0.20～0.24%であり、土壌中交換性カリ含量の多少による影響はみられなかった（図1）。
- (3) 玄米中カリウム含量に品種間差はみられなかった（図1）。
- (4) 玄米の食味値を米粒食味計（RCTA-11A 株式会社サタケ製）で測定したところ、土壌中交換性カリ含量が上昇しても食味値への影響はみられなかった（図2）。

2 期待される効果

- (1) 営農再開に向けた水稻栽培の参考資料をなる。

3 活用上の留意点

- (1) 供試品種は「コシヒカリ」、「天のつぶ」を用いた。
- (2) 供試水田は震災後作付1年目から作付6年目であった。
- (3) 供試水田は表土剥ぎ+客土または深耕による除染が実施された。
- (4) 本成果は土壌中交換性カリ含量が乾土 100g あたり 8.8～46.6mg の範囲内の結果である。

II 具体的データ等

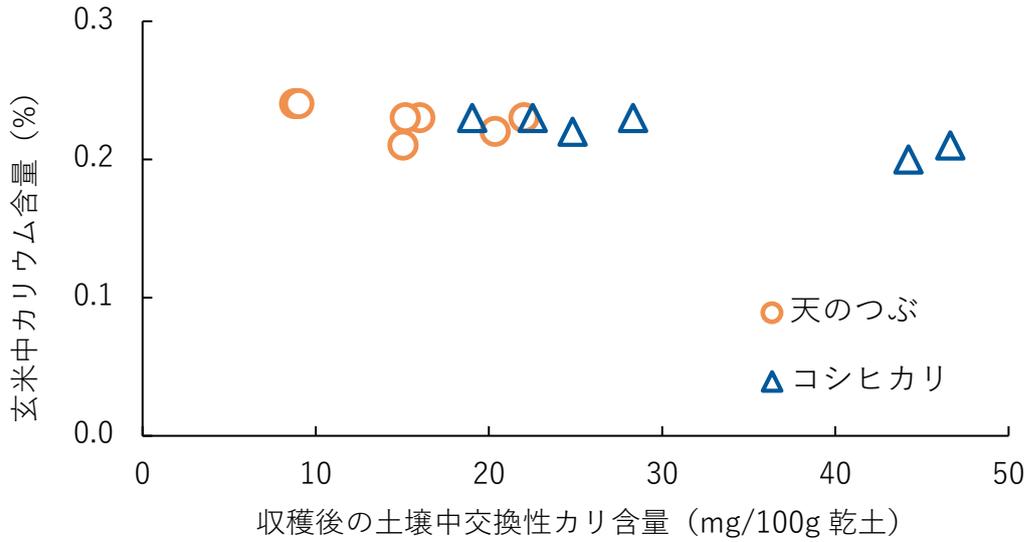


図1 収穫後の土壌中交換性カリ含量と玄米中カリウム含量の関係

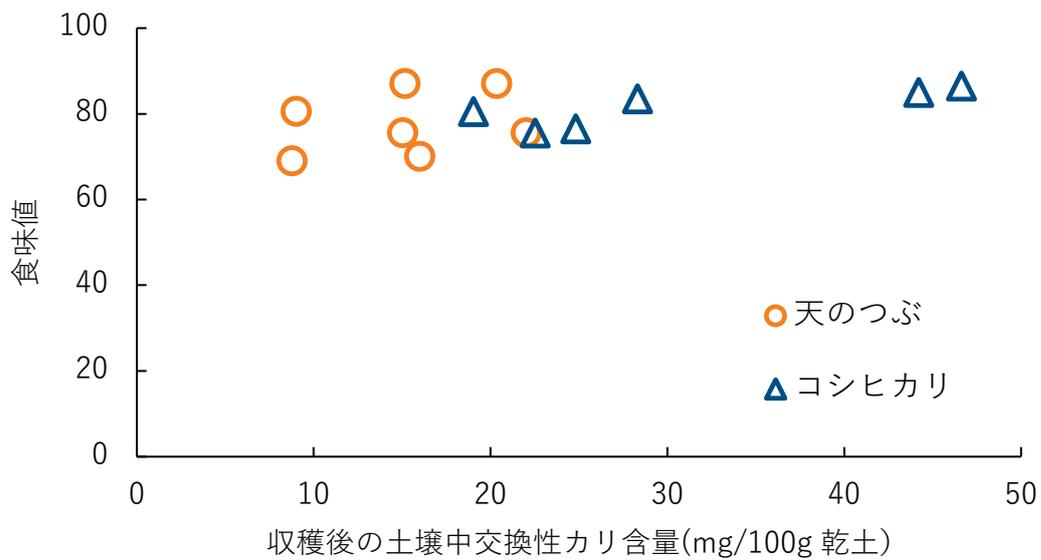


図2 収穫後の土壌中交換性カリ含量と玄米の食味値の関係

III その他

1 執筆者

三本菅猛

2 実施期間

令和元年度

3 主な参考文献・資料

なし